

# かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 9 No 06

9 5 号

平成13年 6月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

## 小児科学会シンポジスト

院 長

5月18日～20日の小児科学会の休診に際しては、御理解と御協力をいただき、ありがとうございました。お陰様で、無事シンポジストの責務を全うすることが出来ました。今回は小児科学会について、報告したいと思います。


日本小児科学会は、我々小児科医が属するもっとも大きい学会です。毎年各地で小児科学会が開かれて、今回で104回を数える歴史のある学会なのです。日田は北海道から南は沖縄まで全国各地から、小児科医が今年は3000人ほどの先生方が集まりました。今回は東北大小児科学教室が担当し、飯沼教授が会頭をつとめられました。小生は「21世紀の情報化と小児科医」というシンポジウムで、「外来小児科におけるインターネットの活用」を発表しました。シンポジストは5人の先生方で、大阪大学、東大等のそうそうたるメンバーでした。シンポジウムは5つありましたが、もちろん開業医は小生一人だけでした。このシンポジストに選ばれるということは、小児科医にとって大変名誉なことなのです。大学や総合病院には施設や診療内容ではかなわないものの、一小児科開業医が実際に行っていることを堂々と胸を張って発表しました。小生もずいぶん(?)、有名になったものだと、終了後余韻に浸っていたことは言うまでもありません。

発表の1週間も前から、何となく落ち着かずプレッシャーを感じながら準備をしていました。深夜までの準備と緊張による不眠のため、診療も上の空(そんなことはなかったと思いますが)で、真っ赤な目に気付かれた人もいるかもしれません。

発表の内容は、当院で実際に行っているインターネットの利用法についてが中心で、ホームページや医療相談をはじめた経緯について紹介しました。皆さんも御承知のように、当院の開業理念は「母親の不安・心配の解消」です。その理念から診療に当たるとともに、院内報の発行等によって実践してきました。しかし書き手の思いとは裏腹

に、院内報はあまり読まれていない印象を持ちました。テレビなどのメディアも同じで、ただ情報を垂れ流しているのでは情報として生きてきません。ちょうどインターネットの普及が始まり、求める人に提供して初めて情報となりうると考え、1996年1月ホームページを開設しました。その後様々なメディアの評価と利用する保護者の方に支えられ、現在はアクセス数は20万件を超え日本でも有数な小児科サイトとして評価されています。医療相談もトップクラスで2001年3月末現在、相談数は3000件を越えました。今年2月の182件が最高で、6ヶ月の平均は100件を超えています。また医療相談者に対するアンケート行い、90%近い相談者では回答に満足し、今後のインターネットによる医療相談の必要性については95%が必要と回答していました。アンケートの結果を見ると、小児科医と患者との間には、まだまだ大きなギャップがあることを感じました。患者さんとのコミュニケーションの大切を強調し、当院で実行しているお母さんクラブや患者さん専用のメールアドレスも紹介しました。会場には大勢の小児科医が集まり、患者さんとのギャップを埋めるような努力の必要性とコミュニケーションについて訴えました。

医療は医師一人では出来るものではなく、多くの人たちに支えているのです。今回の発表を通して、改めて多くの人たちに支えられていることを強く感じました。たかだか弱小の開業医が日本小児科学会のシンポジストになれたことは、推薦してくれた先生方だけでなく、ホームページを支えてくれたマスコミの方々のおかげだと思っています。そして何より小生の理念を理解し混雑にもかかわらず通院してくれる患者さん、そしてスタッフ達(学会でも写真入りで感謝を示しました)の支えのおかげだと思っています。シンポジストの名誉も小生一人のものだけではなく、同時に支えてくれるみんなのものなのです。本当に、ありがとう!!。



**新しい看護スタッフが入りました**  
従来のスタッフ同様、よろしくお願いたします。

はじめまして、濱田智子です。外来看護は初めてなので、戸惑うことも多いのですが、早く慣れてお母さん達のためになれる看護婦になりたいです。よろしくお願いたします。



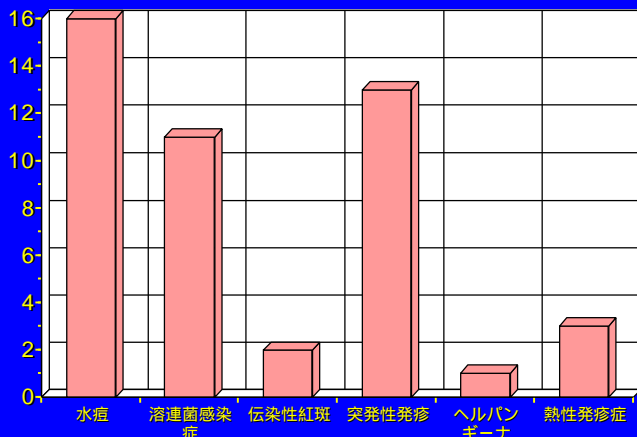
## 読者の広場

先月も30通を超えるメールや投書を、また先月号の一面記事「夜間診療」に対しても様々な意見をいただきました。まずは、駐車場で車に傷つけられた中村さんからのメールを紹介します。「こんにちは。いつもお世話になってます。中村茉莉の母です。お蔭様で連休中出ていた熱もすっかりひいて、きょうはじめてお外であそばせられるまでになりました。小さな質問にもいつも丁寧に答えていただきありがとうございます！！（省略）2つめ。じつはずいぶん迷ったのですが・・・。連休前日の診察を受けてる間に駐車場で車を傷つけられてしまいました。くぎかガキのようなもので運転席側にビビビーと一本。前、後ろのドアその前後ときれいに一本つながってました。修理するにもこんなに広範囲では・・・。主人に連絡したところ、茉莉も熱があることだし、いずれ傷はつくんだから事故じゃなくてよかったじゃない、かえっておいで、といわれ帰宅しました。傷を見て「きっと、子供の仕業だろうね、仕方ないよ。」という主人と話し合っ、警察に届けられないことにしました。ところが、今日になってボンネットのかなり上のほうにもためらい傷のように（笑）鍵かなんかでくるくるしたあとが。ぞー、としました。4WDでかなり大きな車なので大人じゃないと届かないところなんです。（ちなみに主人は知ってたよ、と。今帰宅して言ってます。どうも私がエキサイトするから黙ってたようで。）当日、行ったときはかなりすいてたのですが、帰りには満車でした。あんなまっぴるまに人目が多いところでこんな事する人いるんだなあ、その勇気にびっくりしました。家はあんまり車を大事にしてないの（笑）今後も修理する予定はありません。ただ、他にもこんな方がいらっしゃるのでは、と思いメールしました。よく子供を乗せて来て車で待ってらっしゃるお父さんとかをお見かけします。ちょっとおかしいな、と思ったら気をつけて下されば今後は減るんじゃないでしょうか。通り魔的にうちの車がたまたま被害にあっただけだと一番いいんですが。なんだか妙な話が長引いて申し訳ありません。ただ、傷をつけられた場所があまりにはっきりしている事、他の方も被害にあわれては、ということからお話する事にしました。では、学会がんばってくださいね。お怪我いかがですか？いつもお声をかけたいなと思いつつ診察を受けておりました。お大事になさってください。」。当院の患者さんがやったとは思いたくはありません。同じようなことがあれば、お申してください。続くようであれば、掲示することも考えます。



次はインターネットで当院を知って初めて来院した青木さんからのメールです。「川村先生へ。こんにちは。昨日、2ヶ月健診で病院に初めてお伺いした青木と申します。昨日は息子の郁弥がお世話になりました。前からHPを見ていて、「今度は是非この病院に」と思い、お伺いいたしました。そして、健診が終わって帰るときに「本当に来てよかった」と思いました。もちろん息子の体のこともありましたが、私の精神的な面をととても楽にして頂いたからです。先生が「健診はお母さんの不安を取り除くためにもあるんです」と仰ってくださったことが、とても印象に残っています。「これからは夜中の授乳があつて大変だと思いますが、頑張ってください。」と言って頂いたことも。本当に、大げさではなく涙をこらえるので必死でした。先生が、「わかってきている」と思えて、とても嬉しかったんです。そして、健診が終わって帰ろうとした時に、私が何気なく聞いた「おちんちんの話」をするのを忘れたと、診察室に呼び戻し「不安を持って帰られるのも・・・」と、絵に描いて説明して頂いたことも、とても感謝しています。健診に行く前まで抱いていた不安は嘘のように消え、明るい気持ちで家路に着くことができました。本当にありがとうございました。今度は予防接種でお伺いしたいと思っております。宜しくお願い致します。感謝の気持ちを是非お伝えいたしたく、メールいたしました。」また夜間診療に関して次のようなメールをお戴きました。「お疲れ様です！柴田三兄弟の母です！かのんの貧血、三兄弟のゼーゼーではいつもお世話になってます！。夜間診療の件！、先生の方針でいいと思いますよ！。常々姉とかわむら先生が過労で死んじゃったらどうしようね！って心配しています！。適度に休んで頑張つて子供達が大人になるまで長生きして下さい！。それではおやすみなさい！」。なかなか切実な、メールありがとうございました。過労死しないように、そして三兄弟が成人するまで頑張ります。他にも紹介しきれなかった方々、ありがとうございました。

## 5月の感染症の集計



先月同様、水痘が増加しています。溶連菌感染症も比較的多く診られました。発疹のある方は診察前に必ず、受付まで申し出てください。高熱で目やにや扁桃の膿苔を伴うようなアデノウイルスによる感染症は、今月もかなり多く見られています。発熱は4~5日以上続くこともあり、比較的重症感があります。市内全体で流行して、病院のベッドも余裕がないようです。

### 編集後記

骨折とシンポジウムの準備に明け暮れ、終わったら余裕が出るかと思いましたが、でも、なかなかそうはさせてくれません。アデノ感染症は重症なので、連日点滴が多く、入院の必要性も高く気が抜けません。そうこうしているうちに、この新聞やお母さんクラブの準備など、また忙しくなっていました。何時になったら楽になれるのでしょうか。

